

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

7月20日付2017年産フランス産オランダ産在庫表を配布いたします。

よろしくご確認ください。(新品種が含まれています。1ケースしか確保されていない品種がありますが、当社にてツボル球を確保する場合がございます。ご了承ください。)

6月上旬から始まりました「百合試験栽培」調査及びオープンデーにつきまして、ようやく調査が完了いたしました。

期間中には例年になく大勢の皆様にお越しいただき、様々な意見交換もさせていただきました。大変勉強になりました厚く感謝申し上げます。

並行して行われております「新潟セレクションリリースプロジェクト」「魚沼隔離」、約250品種の試験についても開花が進み、終盤戦を向かえております。

今回の情勢報告は、主に試験栽培の結果についてお繋ぎしようと考えております。

原稿を書いていた18日には、魚沼市田川入地区にて、大雨に見舞われました。地元魚沼も、大雨の被害に遭いました。(原稿完成20日になりました。すみません。)全国的に荒れた天候が続いております。心安らかにおられますよう、お祈り申し上げます。

自然は…、厳しいです。
前を向いて進んでいけ!との激励の言葉が響きます。

2017年百合試験栽培

A.H系

試験栽培前半戦の涼しさの影響もあったかと思いますが、花もちがすごく良かったです。L.A以上に色が鮮やかで、花もちの良い品種が多く、「やはり透かし百合はきれいだなあ」という感想でした。

涼しさが大きく貢献したと思います。栽培難易度は、L.Aより難しく、球根品質も比較的不安定な透かし百合が良く出来たことで、見直すきっかけとなったのではないかと思います。

変わり咲き、珍しい花色だけではなく、スタンダードオレンジ色を中心に有望と思われる品種が数品種ありました。

セミダブル化することにより、花粉を消す、いわゆるポーレンフリーの品種がA.H/L.A両方に登場してきていることも注目する動きとなりました。(昨年からさらに前進。)

L.A系

過去20年近く、日本の切花市場において「主要品種」といわれてきた品種のオランダにおける作付け減少、球根品質の低下などの影響により、L.A主要切花産地が大きく品質変更を計画している事は前回6月23日付情勢報告にて報告させていただいた通りです。

ギリギリ間に合ったのかなと感じていますが、産地・作型毎に主力品種として使える品種が15万~70万球レベルで発注確保することができました。

まだまだ切花生産ハル、切花流通ハルにおいては検証が必要な品種も多く含まれていると感じていますが、いきなり何の実績もない品種をパニック的に導入しないで済んだだけ良しとしなければいけないのかもしれないかもしれません。

各育種会社に対して持っていたイメージが、覆される品種がついに登場してきている様です。輪数の改善、花もちの改善、逆に改悪。様々な結果が出てきています。

*球根業社が試験栽培することによって得られるデータは、あくまでもその土地の気象条件、その施設内により栽培された結果だと考えています。

全国の様々な気象条件によって生産される切花農家の皆様に提供できるデータには、限りがございますが、せめて「生産特性」と「品種特性」特に重要性が増してきているのが「花もち、開花性」なのではないかと感じています。

新潟県の公式ユーチューブページをご確認いただけたでしょうか？

県の切花農家にとって、重要な農業品目である「透かし百合・L.A」という花材の花もち、及び開花性を向上させるために、メーカーとともに研究開発を行った「延命材」について取り上げられております。

先の事を見据えて（農産物の生産物規格）、水道水だけではなく、栽培現地の井戸水を使用したりして実験を繰り返したそうです。（3年以上）

O.H/O.Tについては、十分な効果が確認されないという事で今回は見送られていますが、さすが行政が公表するだけのことがあります。

びっくりするくらいの効果が出ています。

既に使われた花屋さんにもその効果を認めていただいた様子。
1本当たりの経費負担もそれほど大きなものではないとの事。
通常行われる切花出荷処理工程も大きく変更する必要がないようです。

比べてみてください。びっくりするくらい違います。

新しい品種の登場、大幅な花もち及び開花性の向上で、A.H/L.Aが見直され、花卉市場に確固たる地位を再確立されることを切に願っております。

鉄砲百合

現在主要品種として流通している輸入鉄砲百合の内、ブライトターは生産停止。ホワイトフォックスも近い将来生産停止との事。

生産継続が決まっているのは、ウーリーター（ビククターから品種名変更）のみとなる様子。

数年前から複数の育種会社の協力のもと、試験栽培が繰り返されてきました。

本年の試験では、

DJ社＝鉄砲百合で2品種

ST社＝鉄砲百合で1品種

VZ社＝LL0で1品種

MAK社＝鉄砲百合で1品種

可能性を感じさせる品種が確認されたようです。

来年はさらに追加で2品種試験が予定されております。

ヨーロッパ切花市場においては、極大輪の鉄砲百合が支持され続けたものですから、日本向けの中小輪系の鉄砲百合がほとんど開発・育成・増殖が進んでいませんでした。

近年大輪系の鉄砲百合がヨーロッパ市場で不人気となり、鉄砲百合の球根生産はトータルでは激減の方向に向か

ってきているとの事。

一見逆風にも感じますが、こうして新たに中小輪の育成が始まったことは、こういった市場ニーズの変化によるところかもしれません。日本の鉄砲百合市場にとっては逆に追い風が吹いてきたといえるかもしれません。

(大輪志向の時には残念ながら日本市場の嗜好に全く合っていなかった。そういう意味では、VZ社の中小輪LLOはすごいかもしれません。ほぼ鉄砲百合の形に近づいています。)

アフリカ産のLLAは、極、鉄砲百合の形状に似た品種です。

球根増殖も再開してくれることが決まりました。

鉄砲百合も多様化に向けた準備が始まってきたと言えるのかもしれません。

その他の種間交配は省略します。

LLO、LLA、LOOT、TA、AT 様々な主観交配が実行されています。将来新たな百合の可能性が広がるのでしょうか？

OT系

今回の試験では、新品種で有望に見える品種が黄色1品種、ピンク3品種、白4品種、くらい確認できたかなと思います。(草丈1m以上、18/20サイズ5~6輪以上、輸送箱20本入るボリューム感。作型によって16/18使用可能。)

当社試験の場合、OTカテゴリーの進化は非常に早く、まだ当分世の中には出てこない品種、選抜年度で言うところの2014年選抜などが試験されていました。上記した8品種の内、5品種が2014年選抜にあたります。

(従って、バスターン(13年)シャブリス(14年)よりさらに進化したように見える品種が咲いているという事になります。)

今回の試験栽培の最大の収穫は、台湾の輸入業者・営業(ベテランの女性)の方が4日間も輸出業社・育種会社と共に調査に参加してくれたことです。

0.T品種の一つ一つを確認しながら、台湾マーケットと日本マーケットの目線の差を確認していただきました。(八重0.H系についても…、台湾ではすでにローズリ-系のみで90万球以上流通しています。やはり個人消費市場での評価は高そうです。後でレポートします。)

結果を言うと…、台湾市場に比べて…、

花色よりももっと重大な、「咲き方」に対する価値観に大きな差があることが確認されました。

日本における0.H/0.T系の切花が消費される場面と、台湾を始めとする、他アジア諸国の消費嗜好には、主な使用用途に大きな差がありそうです。

この違いは、色以上に問題となる様に感じました。

日本が求める咲き方と、他の国々の嗜好が違う事は、球根生産者がライセンス取得するための品種選択に対して大きな影響を与えると考えられます。

個人的には、結構衝撃が大きかったです。

どんどん0.H系の性質に近づく進化をしてきているのに、諸外国は今の0.T系の特性を支持するとなると…、日本が使わないサイズの販売範囲が制限されてしまうことになるからです。

うまく他の国の消費嗜好との折り合いをつけられるか？

色の問題だけではなかったようです。研究・検討が必要ですね。

OH系

本当はここが一番レポートしたいところなのですが…、

考えをまとめきれないうちに大雨被害に遭遇してしまい、次の日程が入ってしまいました。

簡単なレポートとなることをお許しください。

○一重0.H系

1. ポーレンフリー

今年は、免除品種で2品種、隔離栽培で3品種。

隔離に入っていた2品種の完成度はすごい。

来年は、5~11品種追加されてくる予定。個人的には最大注目のカゴリーです。

2. 一般O.H系

酷暑期対策、物流対策のとれた白色O.H系を見つけることの難しさ…。

なんとなく出てきたかなあ〜と思い始めました。

ようやく20万球強の球数を取り扱えるレベルになりそうです。

カサブランカやプレミアムブロンドのカゴリーに対応できたら良いなあと考えています。

シベリアのコンディション別試験も面白い傾向がつかめました。

夏秋の抑制試験が楽しみになってきました。

最大の収穫は赤。そして、濃いピンク系に晩成高性種がいくつも復活してくれそうな事です。

15年以上育成プログラムがストップしていたんじゃないかな？

やっと育成スケジュールが一巡してきたのかな？

流通するのはまだ5年以上先の話になりますが、ようやくある程度自信をもって、シイラ、マレロ、エマニーを超えるか、少なくとも同等の価値観のある品種が出てきそうです。

長かった！！

○八重O.H系

1. ロイヤル系

マイウエディングを中心としたこの系統は、使い方を間違わなければ切花用でもよいポテンシャルを発揮しそう。

本来百合には無い「額」を意識的に作ってあるのかな？？

①つぼみの開き方（段咲き。一花ずつ咲いていく。）

②一つの花の開き方（3~10日たたないと満開にならない。）

③花弁を一枚ずつ除去していても…。花卉枚数を数えてみてください。（いったい何十枚あるのか？）

④ガクの部分は最後まで枯れない。花弁を守っているのかな？

ロイヤル系は…、奥が深い！

やっぱり国産球の特性が大きく活かされるなあって思いました！

2. V.Z系

7品種試験されました。美しさ、花もち、花卉枚数、開花性ともに良かった。多分固く切っても咲く品種がいっぱいありそう。

今年の7品種の内、最低3品種は残ると思う。（ソルボンヌ、クリスタルブランカが親の系統??）

一番驚きました。

3. Vletter系

美しさ、花もち、花卉枚数、開花性ともに良かった。

きっちりと品種選択をすれば、2~3年先に登場する品種ですが、すぐに高い性能を発揮しそうです。（オレロンが親の系統?）

4. Roselily系

輸入球29品種（2品種間違い）。実際は、28品種。国産球5品種。

他の会社との選抜方針が違うように見えました。

①同時開花性に優れている（2~3花が同日に開く、ティバーが親の系統?）

②一つの花が満開に開く速度が、他育種会社の系統と比べて圧倒的に早い。（数時間からほぼ2日以内。）

③花卉枚数を数えてみたら、24枚以上の品種は無かった。（球根サイズや、T1、T2その他の影響もあるのか?）

結果として、第一花開花後2~3日で完成形に仕上がる。他の会社にはない動き。

*1 国際市場（個人消費90%。常務需要10%。）

*2 日本市場（個人消費 20%内外。常務需要 80%内外。）

*0. T系のところで記した「咲き方の違い」。

日本市場では、「八重 O. H系」の評価や使い方は、まだ固まっていないように感じています。

球根及び切花の生産性や切花流通品質など調査しなければいけない項目が、一重の比ではなさそうです。

本当は、O. H系についてはほかにも山ほどレポートしたいことがあります。

カサブランカの「メリクロン 2017」、母本候補が当社試験において栽培されていたとか…。

17年産オランダ産 O. H/O. T系は言うに及ばず、A. H/L. A系の一部ですら 3月中旬解冻 3月下旬定植にもかかわらず、「低温積算不足」の影響があった事。

この事が今後どんな影響を与えるのか？とか…。

17年産オランダ産抑制球は、逆に芽の動きが早まりそうな事とか…。

2017 年南半球産作況

17年南半球産作況報告が入り始めました。

それなりに欠品が出ますね…。(太りすぎを含めて…。)

N. Z産の掘り取り選別作業は昨年と比べて大幅に遅れて(平年並みのようですが)いる様です。(やはり雨…。)

V. Z社約 18ha。地温は地表 10 cm下で約 4℃くらい。芽はまだ動き出していないとの事でした。

バッカー社約 10ha。

アイト社 8ha。

7月 20日 pm12:00 現在 V. ZN. Z社アイト氏レポート。

すみません。これから埼玉出張です。

また、まとめて報告します。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

よろしく願いいたします。

以上
森山 隆